

福連木の子守唄

(熊本県天草市天草町福連木地区)

子守唄のおり



江戸時代から、
当福連木地区には
300ヘクタール
近い、主に檜の木
ばかりの天然の美
しい美林が広がっ
ていました。

この山は「角山」といい、地区民の
共有林であり稼ぎ山でした。この稼ぎ
山から切り出された檜の木は、日本一
の檜の柄木として知られ、幕府の山と
して200年という長い年月、檜の木
は幕府納めとなりました。

幕府の山（官山）になると同時に、
「おはやし」、「おとめ山」といわれて
地区民は一步も山に踏み入れること
ができなくなりました。稼ぎ山がなく
なってしまったことで苦しい、寂しい
生活を強いられ、小さなかわいい娘た
ちまでもが子守奉公として出稼に出
て家計を助けました。

娘たちは異郷の地でまじめに務め
ましたが、夕方になってあの赤い夕焼
け空を眺めると故郷懐かしさに「父ち
やーん、母ちやーん」と両親を呼びな
がら、望郷の念にかられたのです。寂
しかった、子守の心情を歌に託したの
です。

福連木の子守唄歌詞

一 ねんねこ ばつちこいうて

ねらんこはたたけ たちやて

ねらんこは じごねずめ

二 ねんねこばつちこは

守子(もりこ)の役目 そついうて

ねらきやて 樂をする

三 おどま盆ぎり盆ぎり

盆から先きやおらん おつても

ぼんべこも きしやされず

四 おどんが死んだ時や

だあが泣いてくるきや

山の カラスと親様と

五 おどんが死んだ時や

大道端(うみちばちや) いける

登り 下(くだり)にや 花もらう

六 花はたつつちや

しばん葉はたつんな

椿 つつじの 花たてろ

歌詞の意味

一 ねんねこ ばつちこいうて

寝ない子はたたいて たたいても

寝ない子は おしりをつねりなさい

二 ねんねこばつちこは

子守の役目 そう言うて

寝かしつけて 樂をします

三 私はお盆までしかここにいません

盆から先は この家(奉公先)にいても

良い着物も 着させてもらえないからです

四 私が死んだ時は

誰が泣いてくれるのかなあ

山のカラスと両親だけだろう

五 私が死んだ時は

人通りが多い道沿いに埋葬してください

人が行き来するときには

花をいけてもらえます

六 花を生けてもらうと言つても

柴葉はたてないでください

椿やつつじの花を生けてください



ねんねこ ばつちこ

歌詞に意味はなく、子供をおんぶしてあ
やしている様。